



眠る村

東海テレビドキュメンタリー劇場 第11弾

第66回 菊池寛賞 2017年日本民間放送連盟賞
(特別表彰部門/放送と公共性) 最優秀賞

ナレーション：仲代達矢

プロデューサー 河邊野郎 | 音楽 本多俊之 | 音楽プロデューサー 桐田ユヅキ
撮影 坂井洋紀 | 音声 杉田健太郎 | オールソング 山口幹生 | 音響効果 柴田勇也 | TC 須田麻記子 | 編集 奥田繁
題字 山本史城 | 監修 門脇康郎 | 製作 齊藤潤一 鎌田徹香 | 製作・配給 東海テレビ放送 | 監製 橋本真樹
2018年 | 日本 | 96分 | F+ | ドキュメンタリー | DCP | ©東海テレビ放送

S L E E P I N G V I L L A G E

www.nemuru-mura.com

本件、
未だ解決を見ず



この事件は、おかしい

三重と奈良にまたがる葛尾。昭和36年、村の懇親会で女性5人が死亡した。ぶどう酒に混入した毒物による中毒死。事件から6日後、逮捕された奥西勝が犯行を認める。当時35歳。「妻と愛人との三角関係を清算するためだった」と自白した。すると不思議なことに、村人たちは奥西の犯行を裏付けるかのようにバタリバタリと証言を変えていった。だが迎えた初公判、奥西は一転無罪を主張。自白は「強要されたものだ」と訴えた。一番は無罪。しかし二審では死刑判決、最高裁は上告を棄却。昭和47年、奥西は確定死刑囚となった。村人たちは事件が起きた公民館を取り壊し、奥西家の墓を掘り返して畑のなかへ追いやった。奥西は独房から再審を求め続けたが、平成27年10月、帰らぬ人となった。享年89歳。八王子医療刑務所で独り、無念の獄死だった。

『ヤクザと憲法』『人生フルーツ』の東海テレビが、昭和のミステリーを揺り起す。

名張毒ぶどう酒事件——戦後唯一、司法が無罪からの逆転死刑判決を下したこの事件。57年が経った今もなお、多くの謎がある。決定的な物証の不在、自白の信憑性、二転三転した関係者たちの供述。そして、なぜ司法は頑なに再審を拒むのか。その謎に挑むのは、『ヤクザと憲法』『人生フルーツ』の東海テレビ放送。ナレーションはかつて奥西勝を演じた仲代達矢。平成最後の冬に放つ、渾身のミステリー。第66回菊池寛賞を受賞した『東海テレビドキュメンタリー劇場』第11弾。

www.nemuru-mura.com | fb.com/tokaidoc.movie | @tokaidocmovie



(C) 東海テレビ放送

シンポジウム「死刑制度を考える～ドキュメンタリー映画『眠る村』をみて」

日時：9月20日(月) 13:30～16:30 (13:00 開場) 内容：・映画上映会：『眠る村』(96分)
 ・映画監督(齊藤 潤一氏)とのトークイベント (60分)
 会場：県立図書館多目的ホール(定員：50名) 無料・予約不要(当日受付 先着順)
 *コロナ感染拡大状況により中止する場合には弁護士会HPに掲載します。

主催：山梨県弁護士会 共催：日本弁護士連合会 関東弁護士会連合会 本企画の問合せ先：山梨県弁護士会 055-235-7202 (当日は繋がりにせん)